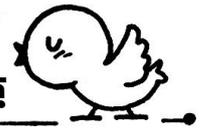




研究通信

No.7



呉市立広南小学校

令和8年2月3日(火) 文責:金原

1月28日(水)に今年度最後となる「広南小中一貫合同研修会」が行われ、竹田先生による第5学年『ブランコ乗りとピエロ』の授業研究と全体協議会を通して多くの学びを得ましたね。まずは…竹田先生、お忙しい中での授業研究はもとより綿密な授業準備、お疲れさまでした。この日の授業から私たちの目指す**“考え、議論する姿”の本質的なビジョン**が見えてきました。子どもたちが「お互いに分かり合うために大切なことは何だろう。」という課題を前に、自分の言葉で語り合う姿から、学級の雰囲気作りや発言をつなぎながらといった積み重ねを感じました。「成果」と「今後に向けて」を次年度に生かしていきましょう。ありがとうございました！！



自分の考えを明確化



考えをもとに対話



もしも自分だったら…

★ 1月28日(水) 竹田先生による授業を通して ★

第5学年 道徳科 主題名 わかり合うために 内容項目:B-11相互理解, 寛容

① 児童が主体的に考えてみたくなるような教材提示の工夫があったか…。

- ◆ アンケート結果を導入で示すことにより、展開で主体的に考えることにつながっていた。
- ◆ 誰もが経験のある「人との関係を築くことの難しさ」を自分ごととして捉えられていた。
- ◆ 登場人物の距離を視覚的に提示したり、二人が肩を並べる場面絵をとり上げて発問したりすることで、子どもたちにとって考えやすく、心情を捉える助けとなっていた。
- ◆ 自分の考えを広げたり、深めたりするために子どもたち同士で質問している姿が見られた。
- ◆ 事前に教材文を読んでいたことで自分なりの考えや思いをもって授業に臨んでいた。

② 児童が考え、議論してみたくなるような発問であったか…。

- ◆ 「共感できる」「共感できない」の二択は、子どもたちにとって考えやすかった。
- ◆ 視覚的に立場を分かりやすく提示したことで、議論のテーマや根拠が明確になっていた。
- ◆ 「自分はピエロに共感できるか」という発問の意図は子どもたちにきちんと落ちていた。
- ◆ 児童の発言に対して「どういうこと？」と問い返したり、「二人はどう乗り越えた？」など、切り返し発問したりすることで、子どもたちはより深く考えることができていた。
- ◆ 常に自分ごととして捉えられるような補助発問があることで対話が活発になっていた。

竹田先生による道徳の授業（「ブランコ乗りとピエロ」の教材を使用）と、それに基づいた「サークル対話」の試みについて、各グループや指導助言者から出された協議内容は以下の通りです。

	成果	課題・改善案
A	教材を事前に読んでいたことで、授業中にじっくりと 自分事として考える時間が確保 されました。また、サークル対話では子供同士で次を促す声を掛け合い、 全員の方を向いて問いかける姿 が見られました。	一度も発言せずに対話を終えてしまう児童への関わり方が課題 として挙げられました。
B	サークル対話の前に実施したペア対話が、自分の意見を出すための有効な足場となっていました。また、 関係図を用いた板書が効果的 でした。	「自分を出し切れない児童をどう引き上げるか」 議論されました。また、挙手をして順番に話すスタイルが、対話ではなく発表会に見えてしまうという指摘があり、子供同士で自然に回すための 教師の立ち位置 を検討する必要性が示されました。
C	ネームプレートで立場を明確にしたことで、子供同士で新たな疑問が生まれやすくなっていました。 サムとピエロの関係性を可視化した板書 も、授業の問い（分かり合うにはどうすればよいか）に迫る助けとなりました。 竹田先生から、サークル対話の目標を「質問する」「広げる」などのレベルに分け、子供たちに共有しているという手立てが紹介されました。	登場人物に共感できない児童へのアプローチとして、二人の 共通の目標（サーカス団のため）に焦点を当てる という案が出されました。
D	教師の補助活動 （発言を広げたり、活動と発問の間を繋いだりすること）が非常にスムーズでした。また、 自分の家庭のこととつなげて考える児童の姿 も見られました。	終末で（お互いに分かり合うために大切なこと）の議論に十分な時間が割けなかった点が指摘されました。授業内で「自分の考えが変わった」ことを積極的に口にさせることで、 子供たちが自分自身の変容を自覚できるような声かけ が提案されました。

1. 授業における成果（良かった点）

今回の授業では、**視覚的な工夫や事前の準備**が、子供たちの主体的な思考を促したと高く評価されています。

- ・ **自分事としての捉え**：事前に教材を読んでいたことで、じっくりと「自分事」として考える時間が確保され、感想や発言に深まりが見られました。
- ・ **視覚的な支援**：ネームプレートによる立場（共感の度合い）の明確化や、**登場人物の関係性を可視化した板書**が、議論の土台を整理するのに有効でした。
- ・ **心理的な安心感**：サークル対話によって、子供同士の物理的・心理的距離が近くなり、**話しやすい雰囲気**が作られていました。
- ・ **変容の兆し**：他者の意見を聞く中で、自分の考えが変わったことを自覚する児童も見られ、**対話の効果**が表れていました。

2. 協議で示された課題と改善案

対話をより「議論」として深めるための課題がいくつか指摘されました。

- ・ **不参加児童へのアプローチ**：なかなか発言の輪に入り込めない「**ゆっくり思考**」の子供たちをどう引き上げ、**深い学びに繋げるか**が大きな課題として挙げられました。

- ・「発表」から「対話」への転換： 挙手をして順番に話すスタイルが発表のように見える側面があり、子供同士が自然に繋がり、問いかけ合う「**本当の対話**」を**どう実現するか**が議論されました。
- ・教師の立ち位置と役割： 先生が補助活動として発言を広げる点は良かったものの、子供たちだけで対話を回すための**教師の介入度合いや立ち位置（しゃがむ等）の検討が必要**です。

3. 指導助言者による「深まり」への示唆

助言者からは、授業をさらにステップアップさせるための具体的な視点が示されました。

- ・「なぜ気づけなかったか」を問う： 例えば「**なぜピエロは半年間もサムの良いさに気づけなかったのか**」と問うことで、人間の持つ「自分本位な弱さ」や「先入観（バイアス）」という**本質的な課題に迫ることができる**との提案がありました。
- ・中等教育への接続： 中学生になると課題自体が重くなるため、対話が難しく感じられるようになります。小学校段階からスモールステップで、互いを理解し合う喜びを積み重ねることが重要です。
- ・中心発問と深まりの接続： サークル対話の場面を盛り上がる場面で終わらせず、**授業全体のねらい（主題）とどう接続させ、二つの山を作るかといった授業構成の工夫**が求められます。

改善策や今後に向けて

1. サークル対話を「議論」へと高める工夫

単なる意見の発表で終わらせず、子供同士が響き合う対話にするための具体的な策が挙げられています。

- ・「発表」から「問いかけ」への転換： **挙手をして順番に発言する「発表会」のような形式を脱却**し、子供たちが互いの顔を見ながら自然に「みんなはどう思う？」と問いかけ合える雰囲気づくりを目指します。
- ・対話のレベル化と目標共有： 「自分の考えをもつ」ことから「他者に質問し、考えを広げる」ことまで、**対話の質を4段階などのレベル**で示し、子供たちが自らの目標を意識できるようにします。
- ・「ゆっくり思考」への支援： 発言が難しい児童に対しては**サークル対話の前にペアで話す時間を設ける**など、自分の考えを出すための「足場かけ」を継続します。
- ・教師の立ち位置： 教師が子供と同じ目線（しゃがむ等）で関わり、**子供同士で対話が回るよう介入の度合いを工夫する必要**があります。

2. 人間の本質に迫る「深まり」の構築

道徳的価値をより深く理解させるための、指導上の改善点が示唆されました。

- ・「人間の弱さ」を突く発問： 例えば「**なぜピエロは半年間もサムの良いさに気づけなかったのか**」と問うことで、誰もが持つ「自分本位な弱さ」や「先入観（バイアス）」という本質的な課題に迫ることができます。
- ・変容の可視化： 他者の意見を聞いて「自分の考えがどう変わったか」を授業内で自覚させ、**再構築させるプロセスを重視**します。
- ・授業構成の工夫： サークル対話が単なる「盛り上がり」で終わらないよう、授業全体のねらい（主題）とどう接続させ、「**二つの山**」のような深まりを作るかを検討していく必要があります。

3. 今後に向けた展望と継続的な実践

これまでの研究成果を土台としつつ、さらなる発展を目指します。

- ・小中一貫した対話の継続： 中学校に進むと課題が重くなり対話が難しくなる傾向がありますが、小学校からの積み重ねを活かし、「**互いを理解し合う喜び**」を**継続して育てることが重要**です。
- ・安心・安全な土台の維持： 子供たちが何を言っても大丈夫だと思える「**安心・安全な学級環境**」こそが**対話の基盤**であり、この文化を今後も大切にしていきます。
- ・成果と課題の整理： 今回の「考え議論する道徳」の取組が、実際に児童にどのような変容をもたらしたのか、**実態に基づいて来年度の計画を見定めていくこと**が求められています。